

Title	根來椀
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1927
Jtitle	史学 Vol.6, No.2 (1927. 5) ,p.30(182)- 30(182)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270500-0030">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270500-0030</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 根來椀

戰國の世、行人即ち僧兵を養うて四隣に勢威を張つた紀州の根來寺は秀吉の怒を買うて天正十三年伽藍寶物の殆んど全部を灰燼に歸した。同寺は一乘山大傳法院と稱し、新義眞言宗の大本山で、始め大治年間に僧覺鑊の高野山に草創し、其後、故あつて正應元年寺基を根來の地に移したものである。現今では山内痛く荒廢するも、猶徳川時代の再建にかゝる山門本坊等が存し、寺寶中に鳥羽天皇の御影三と根來山形釜がある。御影中冠直衣のものは天文十二年正徳三年の再度に修補せられたが、極めて崇高の念を起さしむる優秀なるもので、又根來釜は表に不動尊、裏に櫻花地藏尊を鑄出して、鳥羽上皇の永く洞中に留め置かれたと傳ふ。住僧より訪寺記念として朱塗の根來椀を贈られたが、普通の三倍もあつて世に根來塗と稱して、他の膳具を共に寺僧の手に依つて盛に造られ、又黒根來とて黒漆塗のものもあると。天正兵燹の後其の製造も自ら亡び、其の製法は離散の僧によつて薩摩の田代根古に傳はり、これを薩摩椀と呼ぶ。又吉野にても根來塗に基いて吉野根來とて一種の塗方を創め、後世京都にてもこれを模擬して京根來を造り、猶ほ明治初年に奈良では根來塗を興して、赤地に霞状の黒斑を顯はすものを造り始めた。現時同寺を訪ふ者は保護建造物の多寶塔と右の根來の反り椀によつて僅かに往時を偲ぶ位であらう。(塵泥録より 武田勝藏)